

## 子どもの権利条約とヤヌシュ・コルチャック



ワルシャワのユダヤ人墓地  
にある記念碑  
(コルチャックと子どもたち)

戦争、虐待、体罰、いじめ、貧困などで子どもたちの命が奪われています。千葉県野田市で小学校4年の栗原心愛（みあ）さんが自宅浴室で、父親の虐待によって死亡しました。子どもの人権が侵されています。

ユダヤ系ポーランド人の「ヤヌシュ・コルチャック」(1878～1942)先生をご存じでしょうか。彼は、約100年も前に子どもの権利を当然のことであると考え、「子どもを人権の主体」だと主張しました。第二次大戦中、圧倒的に優勢なドイツに降伏したポーランドは2つに分割されましたが、ユダヤ人はさらに過酷な状況でした。

1942年1月、ナチス指導者により、ユダヤ人絶滅政策が決定され、7月、ガス室への移送が始まります。コルチャック先生と孤児たちはトレブリンカ強制収容所へ送られることになりました。そこは収容所とは名ばかりの「処刑場」でした。コルチャック先生と孤児たちを乗せた貨物列車が動き出そうとした時、一人の兵士が、「先生、今、特赦の知らせが届いたから、列車から降りてよい。」しかし、先生は兵士に向かって、「子どもを降ろしてくれ。」兵士からは、「子どもはダメだ。先生だけだ。」との言葉が返ってきました。コルチャック先生は、頑として貨物列車からは降りませんでした。その後、コルチャック先生と、200人の子どもたちはトレブリンカ強制収容所のガス室で亡くなりました。1942年8月の夏のことでした。

### ◆◇コルチャック先生が残した言葉) ◇◆

子どもはすでに存在している、れっきとした人間なのです

子どもは今を生きているのであって、  
将来を生きるのではない

戦後、ポーランド政府はコルチャック先生の思いと願いを受け継いで、「子どもの権利条約（児童の権利条約）」の草案を国連に提出し、1989年に国連総会で採択されました。日本は1994年にこの条約に批准（法的拘束力を持つ）しました。

この子どもの権利条約は、「児童の権利に関する条約」と言われ、前文と本文54条からなり、大人と同様に「ひとりの人間としての人権」を認めており、子どもは権利をもつ主体と位置づけています。

（「子どもの権利条約」の一般原則）

- 生命、生存及び発達に対する権利（命を守られ成長できること）
- 子どもの最善の利益（子どもにとって最もよいこと）
- 子どもの意見の尊重（意見を尊重し、参加できること）
- 差別の禁止（差別のないこと）

（参照：財団法人「日本ユニセフ協会」ホームページ）